

## □兼職会員インタビュー

今回インタビューする兼職会員：宮城 克文（みやき かつふみ）氏

今回のインタビュアー：尾崎委員長

原稿作成：田中

取材日：平成26年4月19日（土）

取材現場：チューリップテレビ 放送センター（富山市奥田本町8番24号）

「宮城克文氏」の基本情報：

奉務神社：十社大神（じっしやおおかみ）射水市三ヶ鎮座

職業：チューリップテレビキャスター（ニュース6担当）

## ーインタビュー内容ー

Q、これまでの神青会活動についてお聞かせ下さい。

**宮城：**

ホームページも見たことがありますよ。私は卒業してすぐにチューリップテレビに入り、尾崎委員長もご存知の通り、最初は営業をしていました。その頃はよく「2次会の宮城」とも言われていたようで、あの時は楽しかったですね。ただ、部署によって相当違いました、今は外に出ることもできないような状態で、なかなか参加できずにおります。

Q、お仕事とお社についてお聞かせ下さい。

**尾崎：**

私たち神青会の活動も夜だと7時からやることが多いですし、兼職の方をお誘いしてもなかなか難しいものがあり、この時間はまだ仕事が終わっていないという方が多くいらっしゃいます。

**宮城：**

そうですね。今、私の場合は、月曜から金曜日はテレビに出ていて、土日というのも仕事がないというわけではないです。なかなか本当のことを言っているのかというのがありますが、兼職としての有り難さもある反面、やはり良い面だけではなく、実際問題、ほとんど休みはないように感じます。月曜から土曜日まで働いて、日曜日にお祭りがある。この1年くらいはほとんど休みがない状態です。会社と神社を合わせると、必ずしも月曜から金曜日だけではなく、会社の仕事は月金でおさまらない時もあります。放送するのは月金ですが、それ以外の取材・編集という仕事は土日に行うことが多いです。ですから、神社の方にも理解をいただいて、会社の方にも理解をいただいて、調整をしてやっています。

Q、奉仕されているお社について詳しく教えてください。

**宮城：**

本務社と兼務社合わせて18社あります。本務社は「十社大神の社（やしろ）」ではなく、「十社大神」というのが固有名詞としての正式な社名になります。小杉の三ヶという地域になり、小杉駅周辺だと思って下さい。昔、小杉駅の南に「伊勢領」という地域があり、そこが神宮大麻頒布の拠点であったそうです。そして、そこには「伊勢領神明社」というお社があり、もともとここが本務社でありました。その他にも三ヶには、いくつかのお社があり、それらを統合（合祀）させて「十社大神」となり、三ヶでひとつのお社になっています。

Q、兼職をされていることについてお聞かせ下さい。

**宮城：**

国學院大學を出て、明治神宮では研修生として奉仕をしました。父は元公務員ですから、父を見て、何となく公務員のイメージをもっていました。大学を出て、大学の世界を知り。そして明治神宮の世界を知り。そして、放送業界には放送業界のルールがあり、価値観が全然違うことを体感することが出来ました。子供の頃には子供の頃の放送業界のイメージがありましたが、やはり入ってみて、いろいろと意味が分かり、その業界の人間性なんかも分ってきます。例えば放送業界は、常に締め切りに追われ、1秒1秒が勝負の世界ですから放送業界の人は早口が多く、かつこつけも多いかな。だけれども、いろんなもの、ことにスキルをもっていなければならない業界でもあります。それに対して、神主としての必要なスキルは誠実で、謙虚で、礼儀正しくあることで、それは遺伝子として受け継がれていくようにも思いますが、兼職をしていることでのメリットはそれによって視野が少し広がることにあります。

**尾崎：**

私たちは神社関係であれば分かる部分もありますが、神社から外に向けて発信するには外の世界も知っていないと分からないとも自覚しており、そういう時に兼職の方にいろいろ聞いてみたい、教えていただきたいと考えています。

**宮城：**

そういう場があればいいですね。それから、できる範囲でやるのではなく、何か無理なことをするというのも大事だと思います。

Q、質問を少し柔らかくし、プライベートな面での強み（得意なこと）についてお聞かせ下さい。

**宮城：**

プライベートでの「強み」というのは、僕は子供の頃から歴史が好きで、ちょっと変わった子だったと思います。小学校の時、皆はファミコンにはまっていたのですが、僕はファミコンはそこそこにしておいて、ずっと歴史小説を読んでいるような子供でした。それが

強みだと思っていました。しかし、この業界に入ると、お蔭さまでいろんな方に会うので、全然私のなんて強みじゃないなと思いましたね。やはり歴史の取材をすると、歴史学者の人としゃべることになるので、「君、そんなに得意と言っちゃだめだよ」と言われたこともありました。ですから、強みはないと思いますが、強いて、何か挙げるとするならば、とても歴史の話が好きなので、「歴史語り」をするのが大好きです。

Q、結びに、神社にかける想いについてお聞かせ下さい。

**宮城：**

私の今いる会社は、なかなか全員が揃うことはなく、朝礼もなければ、神棚もありません。それでも勝手にだけど、神宮大麻をお祀りするなど、社内教化活動に取り組もう、取り組まなければとも思います。

また、この職業のお蔭で、日頃いろんな業種の方とお話をするので、総代の方としゃべっていても、いろんな会話をしやすいように感じます。全く知らないより、いろんな取材をしているからこそ、ひと時の中でも有意義なお話をする事ができているかもしれません。それから、神社は子供が集う場でありたいですね。一度、「庭療の集い」も開催させていただきました。私の神社にはすべり台と、鉄棒とブランコの遊具があるのですが、近所の子供達には遊びに来てもらっています。でも最近では奥田公園もそうですが、すごい遊具があり、こういうところに子供達は行きますよね。かなわない(笑)。より多くの子供達に来てもらうには、よりいい遊具を入れればいいのか、それもひとつかもしれませんが、当然それだけではないので、「自分が地域の為に汗をかかないといけない」と思って奉仕をしています。いろいろ新たな仕掛けも必要かな。

完



インタビューの様子